

●三位一体後第十三主日

泉のほとり

今月の詩編「第一編」

いかに幸いなことか

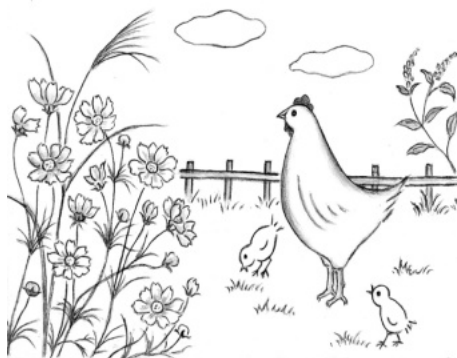
神に逆らう者の計らいに従って歩まず

罪ある者の道にとどまらず

傲慢な者と共に座らず

主の教えを愛し

その教えを昼も夜も口ずさむ人。



自由をもたらず律法

ヤコブは兄弟たちに深刻な問題を指摘しました。それは立派な身なりの人には特別に目を止め、貧しい人を見下すという、外見やうわべで人を判断する教会のあり方を見たからです。それゆえに、ヤコブは「隣人を自分のように愛しなさい」という最も尊い律法を実行しているのなら結構だが、人を分け隔てるなら罪を犯すことになり、律法によって違反者と断定されると語りました。そして「律法全体を守ったとしても、一つの点で落ち度があるなら、すべての点について有罪となる」と教えています。

人間関係においても、心から尊敬し愛する人のことばは、一つでも地に落ちることがないよう、一つ一つのことばを大切にすることです。神のことばを受ける私たちの態度は、そのような人との関係以上のものにならないかもしれません。富を持つ人に親切にし、貧しい人を見下す。人の内側の根っ子にあるものが何であるかを示すものです。貧しい人を造られた神がおられる事実、その神を恐れ、神を中心とした眼差しに捉えられ動かされているのなら、貧しい人を見下すこと、辱めることが、彼らの造り主であられる神をそしめることなのだと思わなければなりません。人自身の根っ子にあるそのような神への心は一つの事柄だけでなく、すべての戒めにおいても現れるものです。

「殺すな」という戒めに真正面に向き合い、守ろうとすると、表の行動としては血を流すことがなくても、依然として自分の内側にある人への攻撃性、妬みや怒りなどがあることに、神の前で自分が偽善であることに気付かされます。使徒パウロは律法には人の罪を気付かせる役割があると教えています。律法の下で律法の言う通りに行おうとすればするほど、神の教えと自分自身とがどれほどかけ離れているのか気付かされるのです。

しかし、ヤコブは「自由をもたらず完全な律法」と話しました。これは主イエス・キリストそのものを表すものです。神は御子を与えられ、罪を償う完全なさげ物とされました。

その力は信じる者の心を罪から自由にし、すべての律法の戒めを守り行えるようにする力です。

そして、その自由とは、御子を代価とされたことによるものであることを忘れてはなりません。御子を通して表されたこの天の父の絶大な愛こそ、人を自由と完全へと導くものでした。それゆえに、私たちはもはやかつて律法の下で、律法の奴隷として、戒めの束縛の下で戒めを行う者ではなく、私に愛を示された天の父のその聖なる御名のために、神のすべての戒めを愛し、その教えに生きる者とされたのです。

主イエスの足に高価な香油を注いだ女に対し、主は「この人は多くの罪を赦されたからだ。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです」と話されました。罪の束縛の苦しみを知れば知るほど、与えられる自由の価値も深く知るでしょう。他方、現実には、主イエスが教えられたたとえ話の中、永遠に返せない借金1万タラントンを帳消しにしていたいた家が、たったの100デナリの借金の仲間を赦さなかった人のように、神の恵みの御業が信仰に結びつかない例も見られるのです。

ヤコブは神の絶大な憐れみを受けた者たちに語っています。その者たちが人を分け隔てすることができると。そして、最後に「自由をもたらず律法によっていずれば裁かれる者として、語り、またふるまいなさい」と教えています。「人に憐れみをかけない者には、憐れみのない裁きが下されます。憐れみは裁きに打ち勝つのです」と。

私たちは神の御前に立ちます。御前に立つことを恐れつつ、しかし、私たちの信仰は裁きを恐れるものであつてはなりません。願わくは、御前に立つ時、父から「よくやった忠実な者」「あなたの忍耐と誠実、愛を知っている」、「ごく小さなことに忠実であつた」と言われ、「取るに足りないものです」と応答する、その信仰に生きていきようではありませんか。すべての栄光を、わが神、父に表したいものです。

(ヤコブ二章一〜七節 黄 允湜 牧師)

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○礼拝後、交わりの会を地下ホールで行います。

○次回の洗礼式と転入会式は二月二日のクリスマス礼拝の際に行う予定です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、一〇月五日(日)までに牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

《教育奉仕委員会より》

本日九月一四日の礼拝後の交わりの会では、七月に台湾で持たれましたコイノニア・キャンプの報告会を行います。

一一時五〇分頃から讃美の時をもち、続けて感謝の報告会をいたします。教会を代表して参加してくださった一九名の兄弟姉妹の恩物に、ご一緒にあずかりましょう。場所は地下ホールです。お待ちしております。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《ルツの会より》

次週、九月二日の礼拝後、地下ホールでルツの会を行います。民数記二一章から学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《説教塾より》

毎年九月に説教塾のための献金をお願いしています。地方の小さな教会の牧師たちが説教の学びを続けられるように、お支えをお願いします。事務所カウンターに袋が置いてあります。献金は吉村牧師にお渡しいただくか、事務所にお預けください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇一篇】

いかに幸いなことか

神に逆らう者の計らいに従って歩まず

罪ある者の道にとどまらず

傲慢な者と共に座らず

主の教えを愛し

その教えを昼も夜も口ずさむ人。

その人は流れのほとりに植えられた木。

ときが巡り来れば実を結び

葉もしおれることがない。

その人のするとはすべて 繁栄をもたらす。

神に逆らう者はそうではない。

彼は風に吹き飛ばされるもみ殻。

神に逆らう者は裁きに堪えず

罪ある者は神に従う人の集いに堪えない。

（司・会）

神に従う人の道を主は知っていてくださる。

神に逆らう者の道は滅びに至る。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「恵みと憐れみの神」

聖書 ヨナ書3章1節～4章2節

説教者 宮間 彰広 兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「天地を造られた神を頼りに」

聖書 列王記下19章14～19節

説教者 宮間 彰広 兄

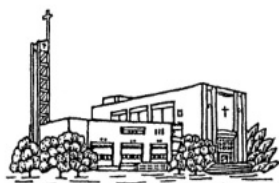
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 87A番 335番

説教 「信仰には行いが伴う」

聖書 ヤコブ2章14～26節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 8番 251番
説教 「畏れを知る信仰」
聖書 使徒4章32節～5章11節(新約 P.220)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「ラシーヌの雅歌」 G.7オーレ

○讃美歌8番

1. きよきみつかいよ かみをたたえる
月も日もほしも よろこびうたえ
かみはあめつちをつくりたまいて
とわのおきてもて おさめたまえり

2. かみにたよる民 つみと死に勝ち
ともによろこびて 代々にたたえよ
みいつたぐいなく めぐみつきせぬ
かみの大御名を もろびと讃めよ

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美

「よろこび歌え」 E.CROCKER作曲
よろこび歌え 主に 賛美の歌を
よろこび歌え 主に 共に歌え
歌えハレルヤ 讃えよ主を
天に向かい歌えよ 天使たち
日よ、月、星よ、山よ、谷よ、木よ、花々よ
すべてのものら 主に歌え
歌えハレルヤ 愛の歌を
空を、海を、日を作られた主を
歌え 主にハレルヤ 賛美の歌を
(歌えハレルヤ 讃えよ主を)
歌え 主に ハレルヤ 賛美の歌
(歌えハレルヤ 主に)
よろこび歌え 主に 賛美の歌を
よろこび歌え 主に 共に歌え
主に 神に

○讃美歌251番

1. ただ主を仰ぎ 生死のみちを
み旨のままに ゆかしめたまえ
み前にふして つみをば悔ゆる
われらの祈り ききいれたまえ

2. わざわい多く なやみもしげき
この世の旅を おおしくすすみ
小暗きみちに さまようときも
主よ、主の許へ みちびきたまえ

3. 疲れてひとり 死かげの谷を
たどれる折も われらをつよめ
み恵みくだし みちからそえて
主よ、主の国に 着かしめたまえ

アーメン

聖餐曲「タントウム・エルゴ」

(この故に、我らは大いなる秘跡をあがむ)

G.7オーレ

後奏曲「サンクトゥス」(レクイエムより) G.7オーレ